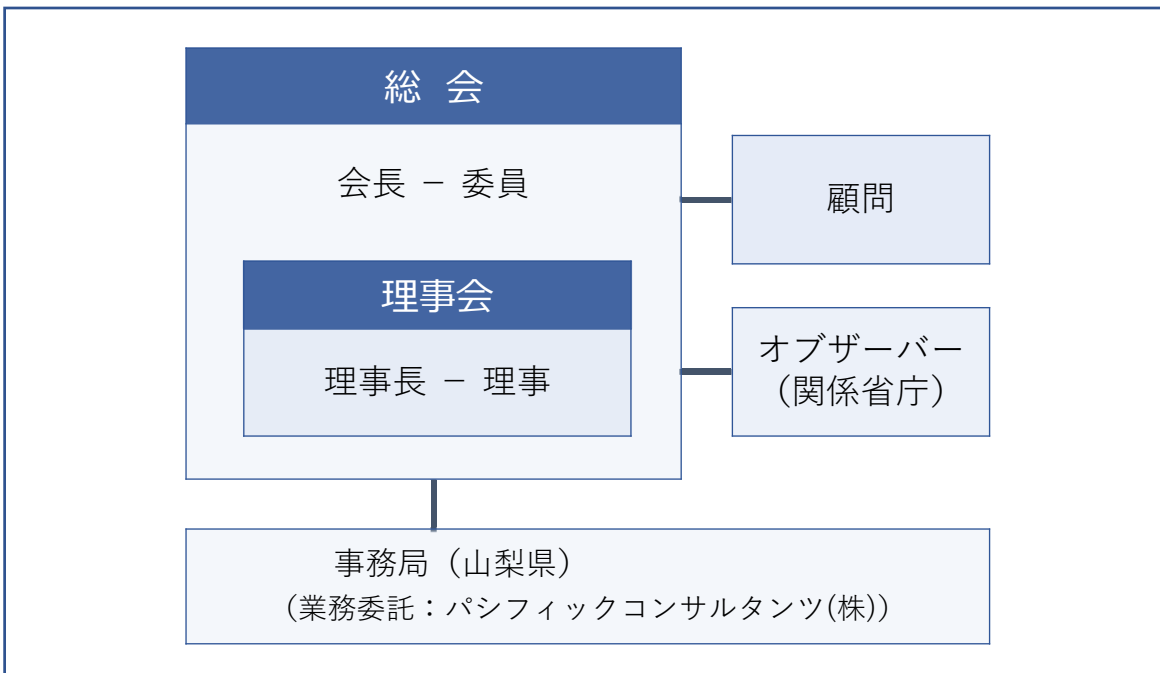


# 富士山登山鉄道構想検討会 開催経過

## 1. 目的及び内容

- 「日本の宝」から「世界の宝」となった富士山の美しさや素晴らしさを、今後何世代にもわたって享受できるよう、確実に継承していくことが責務
- そこで、利用が集中している山梨県側の富士山五合目に至る交通システムのあり方について、環境や景観の保全、来訪者の平準化、防災対策等の観点から、長期的な視点に立って検討
- 現在の自動車交通を、鉄軌道などの新しい交通システムに置き換えた場合の効果や影響、技術的な実現可能性などを検証し、その成果を「富士山登山鉄道構想」としてとりまとめる

## 2. 検討体制（富士山登山鉄道構想検討会）



## 3. 検討経過

- 2019年 5月22日 **勉強会**（登山構想検討会の設置について）
- 2019年 7月29日 **第1回理事会**（検討の進め方、想定される論点 等）
- 2019年 9月12日 **第2回理事会**（先進事例研究）
- 2019年12月17日 **第3回理事会**（課題、五合目アクセス交通のあり方）
- 2020年 1月30日 **第4回理事会**（中間報告骨子素案について）

## 勉強会（2019年5月22日開催）

### ■ 内容

- 過去に実施された富士山の交通システムに関する検討概要
- 富士山登山鉄道構想の検討の進め方について

### ■ 主な意見

- 正式な検討会を設置して取り組むべき
- 鉄道と一緒に、電気、上下水道等のライフラインの整備が必要
- 単なる鉄道でなく、地域にプラスの効果をもたらすことが重要
- 富士山に至るまでの渋滞対策などを含めて議論すべき
- 天皇陛下が「富士山の自然が守られ、今後何世代にもわたり、人々が富士山の美しさを楽しむことができるよう心から願う。」とおっしゃっている

## 第1回理事会（2019年7月29日開催）

### ■ 内容

- 富士山の保全と利用に関する現状
- 今回の構想検討の位置づけや取組方針案等について

### ■ 主な意見

- 富士山の景観を損なわないよう、基本的展望を考えるべき
- 安全の問題を最優先の課題に位置づけるべき
- 国内外の事例を勉強し、世界レベルのシステムにすべき
- 富士山の保全に貢献しながらどのように稼ぐ形を作るかが問題
- 防災や環境を踏まえた上で、新しい日本の観光モデルにすべき
- 経済合理性を前提に、財源をどこに求めるか議論が必要
- 必要な費用に対し、皆が応分の負担する考え方を基本とすべき

## 第2回理事会（2019年9月12日開催）

### ■ 内容

- 国内外の先進事例研究（立山、スイス等）
- 富士山における登山鉄道のあり方について

#### 国外事例（スイス）



四季を通じ、自然や眺望、様々なアクティビティが楽しめる機会を提供



電気、上下水道を備え、上質なサービスを提供

#### 国内事例（立山）



乗り物はすべて無公害・低公害の動力源（主に電気）を利用



生ゴミ乾燥処理施設導入等、現地でのゴミ減量・処理対策を強化

### ■ 主な意見

- **また行きたいと思える魅力づくりが必要**（スイスの登山鉄道は料金は高くとも、もう1回行きたいと思う）
- **富士山登山鉄道を活かしたまちづくりをすべき**
- 富士山に鉄道を敷く場合、火山、地盤などどのような特有の課題があるか、論点と課題、基礎データが必要
- 鉄道は一つの考え方だが、**環境保全や安全性確保**ができない場合は、他の方法を考えることも必要
- **自然環境を守り、これを日本の観光資源として、得られた収益でさらに整備を行う循環が必要**

## 第3回理事会（2019年12月17日開催）

### ■ 内容

- 世界遺産の保全を進める観点から対応が必要な課題
- 現地の地形や自然災害発生リスクなどを踏まえた技術的課題
- 上記課題を踏まえた「富士山五合目へのアクセス交通のあり方」
- 想定されるルート・システムについて

### 【富士山五合目へのアクセス交通に求められる視点】

#### ○富士山の環境の持続可能な保全の視点

- ◇環境負荷の抜本的な改善
- ◇需要のコントロール
- ◇環境・景観の維持
- ◇ライフラインの整備

#### ○富士山の適正な活用の視点

- ◇雪崩等に対する安全確保
- ◇円滑な避難輸送
- ◇年間を通じた安定運行
- ◇様々な魅力資源の活用
- ◇多様な利用者への配慮、ユニバーサルデザイン

### ■ 主な意見

- 富士山の**景観や環境を維持**することが前提
- 山岳地帯では**落石対策も課題**に入れるべき
- バスで避難活動をサポートできるよう、**道路に軌道を整備**する考え方もある
- 短絡ルートで**五合目に直接上がるのでは意味がない**。途中の景色や散策を楽しめるような工夫を
- 世界的に**化石燃料を使用した交通が問題視**されている
- 架線を張って電車を走らせるのでは100年前のスイスと同じ。**地表集電や燃料電池電車など、新しいシステムの検討**を
- 大半の人が納得するよう**地元**に丁寧に説明することが必要。専門家に意見を聴きながら進めるべき

## 第4回理事会（2020年1月30日開催）

### ■ 内容

- 中間報告骨子(素案)
  - 検討の方向性(富士山登山鉄道の必要性、留意点等)
  - 導入ルート・システムの比較・評価(現時点では、「富士スバルライン上にLRT(次世代型路面電車)を整備することが最も優位性が高いと評価)

### ■ 主な意見

- LRTが一番だと思っていたので、今回の結論に賛成
- 立地を考えると、停電や車両故障などの運行障害が起きた場合の乗客の安全確保の観点を課題に盛り込むべき
- 数百万人の来訪者の安全確保は、鉄道が実現する以前から必要
- 道路利用者の安全確保は別途検討し、出来る限りの対応を行う
- 防災や環境維持のための費用の集め方を今から研究すべき
- 次のステップに向け、関係法令の総ざらいが必要
- ユネスコには概ねこうした方向で考えているということをもまず説明し、反応をみるのが第一歩、そこから段階を追って理解を得ることが必要
- 完全にプランが固まって変更できなくなってからユネスコにアプローチするのはよくない
- 世界遺産富士山で行う事業なので、ESG(Environment, Social, Governance)への適合の観点から考慮することも必要
- 国内調達できることが優位であると評価しているが、長期的な品質確保や安全性、価格面で最も優れたものを選ぶべき

### ■ 結論

- 「中間報告骨子(素案)」について、全会一致で決定